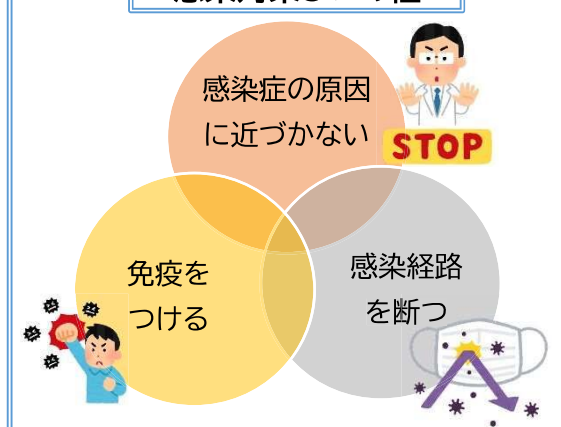


高齢者施設等向け 平時から実践する感染症予防

感染症の重症化リスクがある方が生活する高齢者施設等では、集団感染しないよう、日ごろから標準予防策と手指衛生を徹底しましょう。

感染対策の基礎知識

感染対策3つの柱



施設内の感染症対策

「感染経路を断つこと」が大切です

病原体を→もちこまない
→もちださない
→ひろげない



標準予防策・手指衛生の徹底

標準予防策(スタンダードプリコーション)

標準予防策とは、すべての血液、体液、嘔吐物、排泄物、傷、口の中などの粘膜を、感染する危険性があるものとして取り扱うことです。



日本環境感染学会より引用

➤ マスクをつける



・施設内、勤務時など

➤ 手袋をつける



・血液、排泄物、傷などにふれる
・目、鼻、口などの粘膜にふれる

➤ ガウンやフェイスシールドなどをつける



・咳などによるしぶきをあびる
・排泄物などが飛び散る、または、付着する可能性がある



手指衛生

感染症は手や指を介してひろがることもあるため、手指衛生は大切です。職員や入所者を感染から守るため、適切なタイミングで手指消毒や手洗いを実施しましょう。



手指消毒

・目に見える汚れがないとき



手洗い

・手に汚れがついたとき

手袋をはずした後も手指消毒・手洗いが必要です

手指衛生の5つタイミング

- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 利用者にふれる前 → 重要！！ |
| 2 | 清潔な物にふれる前 |
| 3 | 血液、嘔吐物、排泄物などにふれた後 |
| 4 | 利用者にふれた後 → 重要！！ |
| 5 | 利用者の周辺の物にふれた後 |

「介護現場における感染対策の手引き第3版(令和5年9月)」を参考に作成

新型コロナウイルス感染症対策についてのよくある質問

Q1 空気清浄機を使用していますが、換気は必要ですか。

A1 窓開け換気もあわせて行うことが望ましいです。

窓開け換気は空気中のウイルスを減らすことができます。窓開けが難しい場合には、部屋の中の人数を減らすなど人の密度をおさえましょう。

Q2 個人防護具はたくさん身に着けたほうがいいですか。

A2 感染のリスクを高めるため、必要以上の着用はおすすめできません。

個人防護具を必要以上に着用すると、脱ぐときに感染するリスクが高まるだけでなく、着脱の手間が増えて時間と負担がかかるため、ケアに応じて選択して使うことが望ましいです。

<参考資料> 第87回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和4年6月8日)館田先生提出資料「“効果的かつ負担の少ない”医療・介護場面における感染対策」
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000948595.pdf>

Q3 サージカルマスクよりN95マスクをつけるほうがよいですか。

A3 通常の介助では不要です。

N95マスクは、換気がまったくできない環境下や、気道吸引を行う際に使用します。装着には十分な訓練が必要で、長時間の使用は負担が大きいため、使用する人や使用場面を考える必要があります。

<参考資料> 一般社団法人日本環境感染学会「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第5版」
http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide5.pdf

Q4 環境整備をするときや、陽性者が使用したものに対し、アルコール消毒剤をふきかけてよいですか。

A4 消毒にムラが生じやすいのでおすすめできません。

ドアノブ、手すり、スイッチなど、たくさん触れる部分を1日数回、洗浄剤や消毒剤を染みこませたペーパータオルなどで拭き取り清掃することが勧められています。

Q5 陽性者が使用した食器やリネンは分けて洗ったほうがよいですか。

A5 家庭用洗剤を使用して一緒に洗うことができます。

新型コロナウイルスは、一般的な家庭用洗剤に含まれる成分で感染力をなくなるため、陽性者とそうでない方の食器やリネンを分けて洗う必要はありません。

名古屋市 令和5年11月